

SST・認知症ケア支援VR



User's
Voice
vol.25



FACE DUO

FACE DUOで医療・福祉・地域をつなぐ
新しい“共感”と“支援”のかたちを



浅井ヘルスケア グループについて

浅井ヘルスケアグループの歴史は、1946年、浅井利勇が東金市に浅井医院を開設した時から始まります。当時から現在に至るまで一貫して、「精神科という専門性を保持しつつ、地域の医療ニーズに応え、地域医療に貢献する」ことを目的として事業を行ってきました。現在では「精神医療・福祉」、「高齢者医療・福祉」、「予防（予防医学・介護予防）」をグループの3本柱に掲げ、精神病床300床、内科病床87床を有する浅井病院を中心に、人間ドック、サテライトクリニック、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、地域包括支援センター、就労支援事業所等を展開しています。少子高齢化により人材確保の困難、疾病構造の変化、利用者の高齢化や生活環境の変化などさまざまな課題が顕在化し、それに伴い地域のニーズも変化しています。浅井ヘルスケアグループと浅井病院は「入院・外来」から「入院・外来・在宅」への事業転換を推進し、これからも地域の人々の健康・幸福の実現に力を尽くします。



浅井ヘルスケアグループ
理事長

浅井 禎之 先生

認知症疾患医療センターの役割

浅井病院は千葉県東金市に位置し、精神科・内科を中心とした多職種連携によるチーム医療を展開し、地域の認知症ケアを支えています。認知症疾患医療センターとして、専門的診断と地域連携を通じて、認知症の早期発見と適切な支援を推進しています。近年では「できないこと」よりも「できること」に焦点を当てる新しい認知症観が広まりつつあり、本人の尊厳や主体性を尊重するケアが求められています。薬物療法だけでなく、非薬物療法も重要であり、非薬物療法の普及は認知症の方や介護される方の生活の質の向上に寄与します。FACE DUOの認知症ケア支援VRでは、認知症の方の気持ちの理解と適切な対応方法を学べる為、幅広い方に活用が期待されます。認知症に対する正しい理解が進むことで、認知症ケアの質の向上と新しい認知症観の実践に貢献することが期待されています。



浅井病院 院長
秀野 武彦 先生

「患者さんに一貫して関わり続ける」在宅診療支援部について

当部門は精神保健福祉士、看護師、作業療法士、事務員、その他職種の計97名で構成されています。主な業務として、救急病棟の入退院支援（96床中60%相当）、外来患者相談（心理検査含む）、訪問診療（月450件）、訪問看護（月2400件）、未治療や治療中断者へのアウトリーチ支援、DC業務（1日250人）、病棟作業療法（1日120件）、新患予約管理及びインテーク（精神科新患予約数 月160件）、など多岐に渡ります。当部門は「患者さんに一貫して関わり続ける」というテーマで看護、支援を行っています。患者さんの本来の姿は入院中の姿ではなく、自宅にあります。その姿を取り戻す事が私たちの仕事です。その業務の中でFACEDUOは特に訪問看護、病棟作業療法、DC利用者の支援において、患者さんが本来の姿を取り戻すようなスキルを身につけられる機会の一つになることを期待します。

在宅診療支援部におけるFACEDUO活用と導入成果について

在宅診療支援部では、利用者の社会復帰を支える新たな取り組みとして、VR技術を用いたソーシャルスキルトレーニングツールであるFACEDUOを導入しています。このツールを活用することで、専門的なSSTの知識を持つスタッフがその場になくても、メンバーに対して質の高い訓練を安定して提供することが可能となりました。

認知行動療法に基づき「客観的な振り返り」を促す助けとなる

現在、当部署のデイケアではセッションにおいて週に1度VRを取り入れています。VR SSTは事前の準備が最小限で済むため、現場の状況に合わせて円滑に導入できるのが大きな利点です。訓練の内容についても、デイケアでの会話の始め方や切り上げ方といった具体的な生活場面の中から、参加者のニーズに合わせて柔軟に選択することができます。VRのプログラムは、物事のきっかけ、感情、思考、行動という認知行動療法の要素に基づいて構成されています。自身の体験をこれらのステップに分解して振り返ることで、これまで主観的に捉えがちだった出来事を客観的に俯瞰できるようになり、深い自己理解を促す助けとなっています。

診察でのコミュニケーション改善につながった例

実際の活用例では、具体的な成果も確認されています。例えば、多弁な傾向のあった利用者が、VRでの客観的な振り返りを通じて、自身が話しすぎている可能性に自ら気づくことができました。その結果、主治医に対しても現在の調子や薬についての相談を整理して伝えられるようになるなど、診察場面でのコミュニケーションに好ましい変化が見られています。

復学・復職を支える「リアルに近い事前練習」

学校や作業所への復帰を目指す方にとっては、実際の環境に近いVR空間でのシミュレーションが、登校や通所を開始する前の確かな準備として機能しています。このようにFACEDUOは、個々の課題に応じた具体的な練習の場を提供することで、利用者が自信を持って次のステップへ進むための有効な支援ツールとなっています。



新検見川メンタルクリニックでの活用



新検見川メンタルでは、発達障害や気分障害を抱える方の割合が高く、特に発達障害のある方の中には、対人不安が強かったり、言語のみのやり取りでは場面のイメージが難しく、SSTへの参加が困難なケースも一定数見受けられます。一方でFACEDUOでは映像を通じて場面を共有できるため、言葉だけではイメージが伝わりにくい利用者でも、同じ場面を視覚的に共有しながら参加することが可能です。導入後、曜日の異なるメンバーも「FACEDUOをやりたい」という動機から参加するようになり、ポジティブな変化が生まれています。

浅井ヘルスケア グループの取り組み～

多施設での活用が進む浅井ヘルスケア グループ

浅井ヘルスケア グループでは、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、デイサービスなど、幅広い介護保険施設を運営しています。認知症ケア支援VRは、これらの施設において以下のような目的で活用されています。

- 職員の支援力向上：VR体験を通じて、より深い理解と共感を持ったケアが可能に。
- 家族・地域住民への支援：体験会を通じて、認知症への理解を広げ、介護者の心理的負担を軽減。



浅井病院



介護老人保健施設 あさいケアセンター



特別養護老人ホーム ゆりの木苑



東金市西部・東部地域包括支援センター

地域とともに、より良いケアを目指して

浅井ヘルスケア グループでは、今後も地域住民やご家族向けの体験会の開催を検討しており、認知症に対する理解を広げる取り組みとして期待されています。VR技術を活用した教育・支援は、介護の質を高めるだけでなく、地域全体で認知症を支える仕組みづくりにも貢献しています。

教育ツールとしての活用

院内スタッフを対象にした「認知症患者の看護」に関する勉強会を実施しました。今回のテーマは、「患者様から見た私たち」。VR（仮想現実）を使って、認知症の方の視点を体験することを目的に開催しました。



忙しい現場だからこそ、患者様の気持ちに寄り添いたい

認知症の方は、転倒や徘徊、点滴の自己抜去、BPSDなど、看護負担が大きくなる症状を抱えていることが多く、対応するスタッフが陰性感情を抱いてしまうケースもあります。講義で理論を学ぶことはできても、実際の現場では、介入を拒否されることもあり、忙しい業務の中で理論通りに実践するのは容易ではありません。患者様一人ひとりの性格や背景が異なる中で、「どのような対応が正解なのか」を模索しながらケアを行う必要があり、スタッフが日々悩みながら対応しているのが現状です。今回の勉強会ではVRを活用し「患者様がどんな気持ちで日々を過ごしているのか」「なぜその対応が必要なのか」といった視点を、実際に“体験”しながら学ぶことができました。理論だけでは得られない、患者様の視点に立った気づきが、参加者の心に深く残る時間となりました。

参加したスタッフの声

- 患者さんの気持ちを理解する。ことばでは出来ているつもりでも実行は難しいことが多い。改めて気持ちの理解や推測が大事だと感じました。
- 認知症の方がなぜ急に怒るのかと思っていましたが、きっかけがあつてそのような行動になっているのが分かり対応方法がイメージしやすかったです。
- VR体験をすることで講義よりも実際にイメージしやすくて良かったです。どれもよくある状況なので病棟でも活用していきたいです。
- 認知症の方の行動を変えるのではなく、介護者の行動を変えることが大切である。とても大切な事だと感じました。



小さな気づきが、大きなケアにつながる

今回の勉強会は、講義に加えてVR体験も活用しながら“心”に寄り添う看護を考える貴重な機会となりました。患者様の声にならない思いに気づき、より良いケアにつなげていく。そんな想いを皆で共有しながら、今後も継続して研修を実施していきたいと思えます。

家族の介護を支える新たな取り組み ゆりの木苑での活用

「ゆりの木苑」まさきデイサービス（認知症対応型通所介護）では、認知症ケア支援VRと高齢者疑似体験装置を活用した、家族向けの体験会を実施しました。



3つの目的で家族をサポート

1. 家族の共感度を高めるために

VRや疑似体験装置を使って、高齢者が日常で感じる不自由さや不安を実際に体験。視覚・聴覚・身体機能の変化を疑似的に体感することで、介護される側の気持ちに寄り添う姿勢が育まれます。

2. 正しい知識を得るために

認知症に関する基礎知識や、介護の際に注意すべきポイントを学ぶことで、誤解や不安を減らし、より適切な対応ができるようになります。

3. ひとりで頑張らないために

介護は一人で抱え込むものではありません。このプログラムでは、家族同士の交流や、施設スタッフとの相談機会も設けられており、孤立感を軽減し、安心して介護に向き合える環境づくりが進められています。

ご家族の声

- 同じことを何度も聞かれるとイライラしてしまうが、本人はこんな気持ちだったんだと理解できたので、優しく接してあげようと思いました。
- デイサービスに行きたくないという背景に、「何をしたらいいかわからず戸惑っている」ということがあると初めて知りました。



家族会の実施について

ゆりの木苑では、定期的に家族会を実施しています。認知症ケアは、専門職だけでなく、家族の理解と協力があってこそ成り立つものです。家族会は、介護を「ひとりで抱え込まない」ための大切な支えとなっています。今後も、地域と施設が連携しながら、家族を支える取り組みを広げていきたいと考えています。

多機能型就労支援事業所 SUNFLOWER（サンフラワー）

当院では2013年より多機能型就労支援事業所SUNFLOWERを開設しました。SUNFLOWERでは、就労移行支援と就労継続支援B型の両方を提供しています。当事業所では、利用者一人ひとりの課題に寄り添いながら、段階的なステップアップを支援しています。当事業所では、利用者それぞれの適性や希望に合わせて就労支援を行うことで、多岐にわたる企業への就職が生まれています。FACEDUOの仕事編では、就労面接の場面や仕事上で困る場面をリアルに体験することが出来ます。まるで実習に行ったかのようなリアルな体験を通じて、利用者が実際に就職した際に慌てず、落ち着いて対処できる力を身につけることが期待されています。これにより、就労への不安を軽減し、自信を持って一步を踏み出して行ってくださったらと感じています。



SST-VR（面接編）

仕事編 VR体験のポイント

- POINT 1 職場で役立つ工夫を実践的に学べる
- POINT 2 安心して何度でも失敗できる
- POINT 3 働いている自分をリアルにイメージできる

詳しくは公式サイトにて

faceduo

検索

販売 Otsuka 開発・製造

JOLLY GOOD!

2026年3月作成
FD2603007